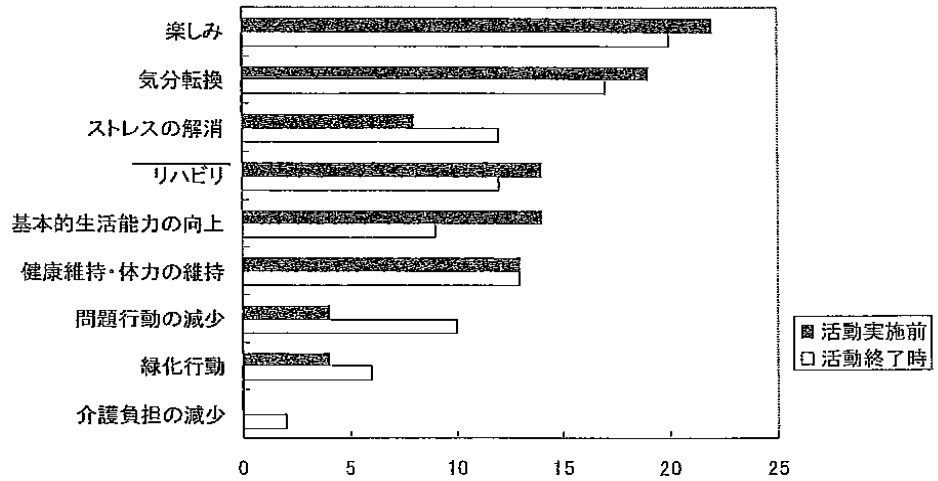


番 号	10328
効用の種類	ふれあいによる生理・心理的効用
タイトル	高齢者福祉施設における園芸療法の役割
概 容	園芸療法が対象者の身体及び精神におよぼす影響について、施設職員らの観察記録のまとめとアンケートを実施し調査し、その効果を検証。身体的能力の変化を客観的に評価するツールとして「ラスク評価表」を用いたが、園芸療法導入前と終了時の評価得点を比較すると、評価得点が上昇したのは11名中6人であり、体力維持向上に役立った。アンケートでは、問題行動の減少の項目で終了時の記入が増え、そのため介護者の負担の減少についても記入された。園芸療法は高齢者福祉施設における入居者の安定した療養生活を保証し、生活の質(QOL)を向上させるための強力なツールに成り得ると考えられる。
内 容	<p>(目的)          高齢者福祉施設において、認知症を伴う高齢者のデイケアプログラムに園芸療法を一定期間導入し、園芸療法が対象者の身体および精神に及ぼす影響やその効果を検討した。</p> <p>(調査方法)          札幌市および壮瞥の合計4か所の高齢者福祉施設で園芸療法を実施。毎回の作業は約1時間から1時間30分とし、園芸療法による対象者のスキル向上および身体能力を客観的に評価するツールとして「ラスク評価表」を用いて測定を行った。対象者は認知症を伴う高齢者11名とし、期間は4月から9月までとした。</p> <p>(結果および考察)          園芸療法導入に伴う対象者の身体能力の変化(ラスク評価)に関しては、評価点が上昇傾向を示したものは6人、変化なしが3人、下降傾向を示したものが2人だった。下降傾向を示した2人は入所後まもなくであり、環境の変化が不安な要素となったと思われた。評価点が高い値を示した5人は、共通して花や緑に関心が高く、精力的に作業を行う様子が見られた。          また、園芸療法実施前のアンケートで、施設職員は園芸療法に対し楽しみや気分転換と言った精神面での効用を期待する回答が多くみられたが、問題行動の減少の項目において、園芸療法導入前には4件の回答から終了時には10件と大きく変化した。介護負担の減少の項目においては、活動実施前には想定されていなかったが、活動終了時には2件の回答があり、対象者の問題行動の減少が、職員の介護負担減少につながったものと考えられる。          高齢者福祉施設における園芸療法の役割として、対象者の体力の維持・向上に役立つだけでなく認知症を伴う対象者の問題行動の軽減効果が高いことが分かった。園芸療法は対象者の不安を軽減し、心穏やかな生活環境づくりに貢献できることから、高齢者福祉施設における入所者の安定した療養生活を保障し、生活の質(QOL)を向上させる強力なツールに成り得るものと考えられる。</p>



第1図 園芸療法の効果に関する施設職員の意識の変化

出典 人間・植物関係学会雑誌 第9巻 別冊：8-9 .2009年  
大竹正枝、高橋タカ子、岡野牧子、北川麻利子、桑原幸枝、細川登美子

備考